

裸足の精神



佐江衆一

裸足の精神

昭和五十四年三月十五日 印刷

昭和五十四年三月二十五日 発行

定価 一五〇〇円

著者 佐江衆一

編集人 吉田掟二

発行人 高原富保

発行所 毎日新聞社

〒100 東京都千代田区一ツ橋

〒530 大阪市北区堂島

〒802 北九州市小倉北区紺屋町

〒450 名古屋市中村区名駅

印刷 図書印刷

製本 大口製本

0095-500550-7904

© SHUICHI SAE

Printed in Japan 1979

裸足の精神

目次

I 歴史と政治の淵から

鉾毒溜りの底から 15

足尾百年を越えて 30

小野組の倒産 33

インドを歩く 37

インドの少年たち 41

椰子の下、人間の時計 45

歩行と疾走 52

「貧しい」と見る目 56

手負いの思想 59

*

己の臓腑にペンを突き刺せ

——野間宏氏との往復書簡——

67

*

現代の "おば捨て"

97

鳩に餌をやる老人

101

故郷回帰者のたたかい

105

わが浅草、九尺間口の人情

109

苛立ち虫の歩み

120

——私の金芝河体験——

II わが文学

歪んだ振子

127

彼岸の洪水

133

通り過ぎる橋 136

作品の軌跡 142

民族性と土着性 146

フィクションとドキュメンタリー

160

崖っぷちの“さし木人間” 164

加害者の内側 168

〈彼〉は飛行できるか 172

小説の中の好きな女 181

砂にまみれた果实を求めて 182

『ガリヴァー旅行記』再読 186

異常なやさしさ 190

幽霊の手紙 194

会話、あるいは言葉のフアック

198

さまざまなおむつについての講演

203

ガンガのほとりで

206

*

草むしらせてください

211

ボタンつぶし

215

III 海辺の街で――

梅を剪る

225

人形の恋人

227

闇夜の蟹

230

片瀬の名物男

233

犬と松ぼっくり 236

ある日、街角で 239

子供の視線 241

父は気のむくままに 243

二十八年目の家族 247

三十一年後の初入选 249

墨書を愛す 252

それぞれの白鳥 253

マキ割り 256

枕頭の高麗青磁 258

夜を待つ 262

*

視点十三章 286

みこしと機動隊 紫陽花とオハヨウ鳥

権力 母親パワーと夏休み 戦災孤児

ホワイト・チーチー 僧しみの持統

街が変わる！ 渡良瀬川に学ぶ

自転車よ、お前もか 読書の愉しみ

かげの人々 職人言葉

IV 同時代の作家たち

大江健三郎 283

1 『ピンチランナー調書』

2 『文学ノート 付15篇』

安部公房 『密会』 292

小田実 『ガ島』 295

黒井千次 297

1 『五月巡歴』

2 『禁域』

高井有一 『暮れ方の森にて』 301

佐木隆三 『年輪のない木』 302

丸山健二 305

1 『黒い海への訪問者』

2 『雨のドラゴン』

3 『赤い眼』

中上健次 311

1 『十九歳の地図』

2 『鳩どもの家』

3 『紀州木の国根の国物語』

谷川健一 『孤島文化論』 318

落合英秋 『アジア人労働力輸入』 319

亀井俊介 『サーカスが来た』 321

ル・クレジオ 『戦争』 324

コリン・ターンブル 『グリーンジ・スガク』 326

現代アラブ小説全集 332

あとがき

佐江衆一エッセイ集

裸足^{はだし}の精神

装
幀

司

修

I 歴史と政治の淵から

